

シリーズ(その3)

脱炭素×経済成長のまちづくり 「安来市再生可能エネルギー地産地消 ビジョン(仮称)」の策定に向けて

今年度、市が策定する「安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョン(仮称)」は、温室効果ガスの削減や地域経済の好循環のために、行政だけでなく市内事業者や市民の皆さんと一体となって取り組んでいく指針となります。

そのため、さまざまな業種・立場の人と検討を重ねる一方で、市内にある事業者を訪問し、エネルギーの使用状況や環境保全への取り組み状況などについて聞き取りを行っています。

訪問先の一つである広瀬町下山佐にある株式会社ひろせプロダクト。木や竹を使ったストローやスプーン、ホテルで使われる食卓用のナイフやフォークなどを生産し、プラスチックの排出量削減やSDGsの14番目の目標である「海洋の保護」に取り組ん



▲天然素材の竹を利用した地球にやさしいストロー。環境問題解決に貢献しています。

問い合わせ
環境政策課
☎23-3098

でいます。現在は製品の生産過程で出る廃材を廃棄しているとのことですが、これをハウス栽培のポイラーの代替燃料として利用することも「再生可能エネルギーの地産地消」の一つの方法です。
このような取り組みについて検討していくことが、脱炭素×経済成長のまちづくりに役立つと考えています。

日本遺産を 巡るたたら の音色

日本遺産の 構成文化財 連載⑫ 最終回



これまで安来市・雲南市・奥出雲町の3つのエリアにまたがる31のストーリー(構成要素)の一部をご紹介します。

現在、日本遺産重点支援地域に認定され、圏域の魅力発信や周遊促進など、地域活性化に向けての取り組みを、安来市は和鋼博物館、雲南市は鉄の歴史村地域振興事業団、奥出雲町はたたらと刀剣館が中心となり進めています。安来は、たたら製鉄の影響を色

濃く受けてきた地域です。安来とたたら製鉄は、連載で紹介したことをはじめ、その歴史の中でも深い縁で結ばれています。先人たちがたたら製鉄との関わりの中で、長い年月をかけて生み出し守り伝えた、信仰と神社、そして港町、安来節、鉄鋼業、河川下流部における新田などは、いずれも特徴あるたたら文化遺産です。

中でも鉄の神・金屋子神と、たたら製鉄の伝統を受け継ぐ鉄鋼業は、安来固有の誇るべき宝です。ぜひ、注目していただき、誇れる地元の文化財に触れてみてください。

問い合わせ
和鋼博物館 ☎23・2500



和鋼博物館



公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団 (写真:菅谷たたら山内)



奥出雲たたらと刀剣館